



有富大輔 *Daisuke Aritomi*
アサヒビール株式会社 中国統括本部 営業企画部
(2008年3月 生物圏科学研究科修了)
みんなに幸せを届けたい。

—どんな仕事をしていますか？

営業企画部に所属しています。販売店に自社商品を置いてもらい、お客さまに商品を手に取ってもらうにはどうしたら良いかという販売戦略を立て、営業部門と協力して、販売促進に取り組んでいます。本社から指示される業務もありますが、現場の生の意見を社内ミーティングで議論し、広島県や中四国地域を単位とした、独自の戦略を展開することもあります。自分たちで考えたアイデアを自分たちで実行できるのが面白いですね。

—なぜ、この仕事に？

食べているときって、幸せな時間ですね。幸せになれる食べ物を届ける仕事がしたくて、高校のころは料理人にな



りたいと思っていました。進路を決めるとき、より多くの人の食にかかわる仕事がしたいと思い、食品関係について学べる生物生産学部へ入学し、そしてアサヒビールへ就職しました。自分の身近な人を幸せにできる食べ物を一からつくる仕事に携われるのは、とてもうれしいことです。

—学生時代の経験で、役立っていることは？

在学中はHU-styleの学生スタッフをしていたのですが、良かったことが二つあります。まず「他人から見て面白いことはなんだろう？」って、考えるようになったこと。最初のうちは記事を書くために淡々と取材をしていましたが、次第にもっと面白くするにはどうすればいいか考えるようになりました。誰をどう楽しませたいのかを考えて、何も無いところから企画を生み出すのは、エネルギーが要るけれど、楽しい。これは今の仕事にもつながっています。もう一つは、取材を通してたくさんの人に出会えたことで、もっと視野を広げようという意識が身に付いたことです。



—大事にしていることは？

円滑な意思疎通ができるように、周りの人とのチームワークを大事にしています。僕は内勤ですが、現場で営業をしている仲間との連携を大事にしています。そのためには、メールのやりとりだけで終わらないように、実際に現場へ応援に行くこともあります。

大学のレポートでも同じで、家で自分一人でやるよりも、みんなで集まってやると楽しいし、モチベーションも上がりますよね。何より、いろんな人の意見を一つ一つ積み重ねていくことで、視野が広がるし、実際にいいものが出来上がっていきます。

—5年後10年後になりたい自分は？

笑いながら、楽しいと思える仕事をしていきたいですね。お客さまを楽しませる商品を作りたいし、職場の仲間同士でも仕事を楽しみたい。今はまだ未熟ですが、「自分のかかわる仕事がお客さまはもちろん仲間や会社にどういうメリットがあって、何に貢献できるか？」そういう意識を常に持って、ワンステップ上に進みたいと思います。

社会の第線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことは、はたまたメンターズが私たちに学生時代の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤 **OB&OG** 紹介



—現在の仕事を選ばれたきっかけは？

リクルートは、時代に応じて新しい情報サービスを提供する会社です。私自身、リクルートの「新しさ」に魅力を感じていました。前職では、社員の異動や昇級の手配を主務としていたので、お客さまと接する機会がほとんどなかったんです。「直接お客さまの声を聴いて、お客さまの役に立てる仕事がしたい」と考えるようになったのが、転職のきっかけです。



—仕事でやりがいを感じることで、逆に大変なことは？

現在、CS（顧客満足）推進室に所属し、お客さまからの問い合わせ内容を分析したり、商品・サービスの改善提案をしたりしています。一つのサービスができるまでに、企画・営業・制作など、本当にたくさんのスタッフが携わっているんです。各部署にお客さまの声を伝え、折衝を重ねる中で、より魅力的なサービスが生まれたときは、喜びもひとしおです。

時にはシステムエラーなどで、お客さまから厳しいお叱りやクレームを受けることもあります。お話を伺う中で、感謝の言葉や今後のサービスへの期待を聞いた時には、安堵と喜びで胸がいっぱいになります。お客さまの生の声が、より良い仕事への原動力になっています。

—学生時代の経験で、今生きていることは？

総合科学部に在籍していたこともあり、視野を広げて総

合的に考える姿勢を大切にしていました。在学中は、幅広い知識を身に付けるため、いろいろな学部の授業を受けました。カスタマー対応は、お金や法律、システム関係などさまざまな分野の質問に答える必要があります。学生時代に、多様な分野の授業を受けて、ある程度基礎的な知識を身に付けていたのが役に立っています。

—今大切にしていることは？

周りの人への気配りですね。小さなことでも誰かに何かしてもらったら「ありがとう」と言うよう心掛けています。簡単なことのように、忙しいとつい忘れてしまうんですね。忙しければ忙しいほど、周りへの気配りを意識的に行うようになっています。普段から周囲と良好な関係を築いていけば、何かあった時に助けてくれる心強い仲間ができますよ。



—広大生へメッセージを

自主性を大切にしてください。自ら動く！考える！取りに行く！受け身では理解度も下がるし、楽しくありません。授業を受けるときは、少しでも多くの知識を身に付けようとする意識で臨めばいいと思います。あとは、続けてみる。最初はつまらなく思えることも、続けるうちに楽しみが生まれることだってありますからね。社会人になってもさまざまな問題が立ちはだかり、それを乗り越える力が求められます。一つの目標を達成できればまた次の目標へ。自分の足でどんどん次のステージへ進んでいってください。



丸一真実 *Mami Maruichi*
株式会社リクルート CS推進室 企画グループ
(2007年3月 総合科学部卒業)

人とかかわりが仕事の醍醐味。気配りを大切に！

取材を終えて



「これだけが仕事」と枠にはまらず、「これも仕事」と、いろんな事にチャレンジしたいですね」とほがらかに語る有富さんの姿が印象的でした。自分も同じように、サークルやバイトや趣味、そしてもっと多くのことを楽しんで行動できる人になりたいと強く思いました。

取材・記事/法学部2年 武林 賢朋



丸一さんの印象は、一言でいえば「できる女性」。何事にも全力で、常に自分を高めていこうとする姿勢がすてきでした。私自身今まで、社会へ出て働くというイメージがつかめていなかったのですが、今回の取材で丸一さんが働く女性として活躍されている姿を見て、将来働くことへの希望や意欲を得ることができました。

取材・記事/教育学部2年 渡邊 綾香